

第68回中国高等学校柔道大会



3年 新藤 海 (川地)



3年 上林 想 (能美)



2年 寺澤龍基 (八次)



3年 大之木隆伸 (呉中央)



1年 新沖彩香 (江田島)



1年 新藤隆成 (川地)



1年 田邊煌成 (十日市)



1年 三谷竹流 (松永)

祝柔道部
 第六十八回中国高等学校柔道大会出場
 男子団体戦個人戦
 女子個人戦
 新藤隆成 (川地中出身)
 新沖彩香 (江田島中出身)
 三谷竹流 (松永中出身)
 田邊煌成 (十日市中出身)

・男子 団体・個人
 ・女子 個人
R3.6.11(金)~13(日)
 於:キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター(周南市)
14年連続全国大会出場が4年前に途絶えた柔道部。リベンジをかけて先輩の後を全力で追いつけている。

弓道

第72回全国高等学校総合体育大会

R3.7.29(木)~8.1(日)
 於:謙信公武道館 (新潟県上越市)



お見事!

県総体個人優勝

8射8中

だけ あかり

3年 嶽 明里

(益田)

島根県高等学校総合体育大会弓道は、6月4日(金)~5日(土)江津工業高等学校で行われた。個人戦において、嶽は1,2回戦とも非常に落ち着いて、順調に的中を重ねていき、8射8中であった。優勝決定戦は、相手と順番に1射ずつ引き、先に外したほうが敗者となる射詰(いづめ)競射。最後まで当て続けて文句なしの優勝となった。決定戦を含めて11射全中はお見事としか言い様がない。

弓道部は、かつて女子団体がインターハイ出場を果たしているが、個人では初の快挙となった。また、団体でも8位に入賞した。弓道の

インターハイ

出場

益田東高等学校生徒募集部
 NO. 32
 R3. 7. 1 発行
 ()は出身中学校名敬称略

の相手は「自分」。まるで心を映すかのように心の動きが的を射抜く結果となるため、心を鎮め集中する強さが必要となる。嶽は毎日の学校生活も落ち着いている上に、弓を持つとその集中力は抜群である。今大会、一番緊張していたのは森山順弘監督であったかもしれない。新潟の地であっても動じることなく、穏やかにしなやかに品格を持って、最高の1本を宙に放ってほしい。「射!!」。

不測の時代と人口の減少化などに伴い、人材や後継者不足、経済や産業の衰退から、先端技術を活用して効率の向上を求め、ますます多様化を求められる世の中となった。人材のスキルを高め、次代を担う若者たちが主役となる未来への戦略を追いかけていく今、個々の生きる力を養い、社会のニーズや変化に対応できる柔軟な人材が正に求められている。

次世代を引っ張る先輩に続け!!



金谷 勇治さん
 芦屋大学卒《本校H27年度卒》
 神戸市立御影中学校勤務 [情報・技術]

高校時代の監督の言葉が心の支えとなっていて、今でも思い出しては頑張ろうと思う。「努力する奴は希望を語り、怠ける奴は不満を語る」が座右の銘。優勝したことよりも負けた悔しさが心に残り、一生懸命にやっただけだからこそ負けたことを大切に、選手権予選で負けた瞬間を忘れず、その悔しさが大学柔道へのバネになっていった。「負けるはやがて勝つ日の初め」負けた経験は、間違いなく自分を強くしてくれた。

【2020 関西学生柔道体重別選手権大会 優勝、いきいき茨城ゆめ国体出場、2019 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会ベスト8】

人間の能力は、学び方次第で、思うよりずっと大きく開花していき、びっくりするほどの大輪をつける。その大輪の花を咲かせようと、教育現場で奮闘しながら活躍を続けている卒業生たちがいる。新しい時代にふさわしい人材の発掘を効果的に進める方法を学び、時代に則したオンラインで開拓し、優秀な人材の基礎固めをして、世の中に放っていく仕事。教育現場で戦う教員として学校で頑張っている柔道部の2人の先輩たち。教育はいつの時代も必要とされる社会の基盤。学校教育の役割は重要で、その国をも変えるほどの力を持っているだけに、次世代をしっかりと引っ張ってほしいと願う。柔道部の卒業生は、2人の他にも県外で教員として活躍中である。



児玉 萌々星さん
 芦屋大学卒《本校H26年度卒》
 堺市立津久野中学校勤務 [保健体育・技術]

高校時代のいろいろな出会いが心の支え。「耐雪梅花麗」が座右の銘。辛い苦しい日々を弱音を吐かず耐えてきた高校時代が、彼女をさらに強くした。何でも事を成すには途中で諦めずに最後まで継続することが大切であることを実践してきたし、力と自信につなげてきた。また、取って茨の道を選び、そういう生き方をしてきた。ストレスを解消する時は、道を決めずに散歩をしたりサイクリングをしたりして、思いがけない発見を楽しんでいる。技術の授業では、PCやものづくりに挑戦している。
【高校時代 全国大会4回出場、大学時代 全国大会出場】

サマ★フェス

8.20 金

7月30日(金) 申込締切
9:00~15:00 会場:益田市民体育館

部活動紹介

焼きそば ラーメン、三色丼 など

お楽しみ昼食会



みんなに会えるのを



楽しみにしています

★部活動体験 午後から 送迎あり

全国大会出場!



3年 坂崎 怜音 (日原)

刀を振り下ろす。闇夜の中で目を切る音と、その緊張した空間がたまたま好きだという。怜音が澄んでいる。音の名のこくと、目指せ剣豪!

剣道部

第67回中国高等学校剣道大会

R3.6.18(金)~20(日) 於:維新百年記念公園(山口市)

本校で理科の教鞭を執っている西浦先生は、本校の組織の要となつて頑張っている。全国大会へは出身道場である「益田警察署 剣道道場」の、小一般で構成された団体戦の中堅として出場が決定している。全日本剣道連盟四段。西浦先生の他にも剣道部の卒業生には益田市内で教職の道を歩んでいる人もいます。彼が顧問をしている剣道部主将の坂崎は、昨年の3月にも中国大会出場を決めたが、コロナ禍で中止となった。夢は地元で警察官になること。第2体育館で近隣の小中学生30人と週2回、ボランティアで指導しながら汗を流している。また、剣道場で一般の人と週2回、一緒に練習をしながら地域の人々との交流を深めている。



西浦 健太先生
 本校教員《本校H21年度卒》



渡邊 亮子さん

第38回 全国道場対抗剣道大会
R3.9.19(日) 於:松江市

渡邊さんは、今春、本校を卒業し島根県警察に合格した。今は島根県警察学校で厳しい研修を受けているが、自分磨きをしている。高校時代に剣道部で3年間続けたことが、自分の力や自信につながっている。心が折れそうなのは、「不屈」の精神で絶対に諦めないという気持ちで心を奮い立たせる。高校時代のクラスメイトが今の心の支えで、高校時代を思い出すだけで、もうひと踏ん張りできるとい